

【病理診断科】

1. プログラムの目的と特徴

1) 目的

病理診断の基本的な事項や、臨床との関連を学ぶ。

2) 特徴

- ①オホーツク圏で唯一の病理医が常勤する病院であり、診療科を問わず多くの症例を経験することができる。
- ②術中迅速診断(2024 年: 127 例)や剖検(2024 年: 8 例)の症例も経験できる。
- ③臨床の各診療科との敷居が低く、活発な意見交換ができる。

2. プログラム責任者

藤木 佑斗(病理診断科部 医師)

3. 研修目標

1)行動目標

北見赤十字病院初期臨床研修プログラムの行動目標の達成に努める。

2)経験目標

- ① 病理診断が必要な症例について理解する。
- ② 病理診断が治療計画に与える影響について理解する。
- ③ 病理診断における標本の作製の過程を理解し、実践する。
- ④ 病理診断を実践する。
- ⑤ 術中迅速診断の意義と役割について理解する。
- ⑥ 剖検の意義と役割について理解する。
- ⑦ 剖検を通じて、疾患の病態生理を理解する。
- ⑧ 剖検症例について、CPC を病理側から準備し、発表する。

4. 研修計画

1) 期間

自由選択期間

2)研修の実施方法

- ① 病理以外の診療科を志望する場合（その科で研修済であることが望ましい）
志望する診療科と協議の上、実際に手術や生検等の手技に参加する。
その検体について標本作製や鏡検による病理診断、診療科へのフィードバックを行う。

■代表的な週間スケジュール

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	志望科の 手術・生検	標本作製	志望科の 手術・生検	標本作製 病理診断	病理診断
午後	志望科の 手術・生検	標本作製	病理診断	標本作製 病理診断	病理診断 小括・総括

② 病理を志望している場合

あらゆる診療科から提出される検体について、標本作製や鏡検による病理診断、診療科へのフィードバックを行う。

■代表的な週間スケジュール

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	標本作製 病理診断	標本作製 病理診断	標本作製 病理診断	標本作製 病理診断	標本作製 病理診断
午後	病理診断	病理診断	病理診断	病理診断	病理診断 小括・総括

③ 術中迅速診断・剖検

研修期間に術中迅速診断や剖検、CPCの依頼があった場合、病理診断科のメンバーとして参加する。

5. 指導体制

指導医 藤木 佑斗(病理診断科部 医師)

6. 研修の評価

北見赤十字病院初期臨床研修プログラムの規定に準ずる。